



城北中だより

令和六年 睦月

城北中学校教育目標

- 思いやりのある生徒
- 真剣に学ぶ生徒
- 健康な生徒

令和六年1月31日発行

「もう1歩。いかなる時も自分は思う。今が一番大事な時だ。もう1歩」

校長 和田 卓也

大寒を過ぎた直後の今季最大寒波襲来の中、皆様、いかがお過ごしでしょうか。学校は、寒さに負けず着実に歩みを続けています。

生徒達とは、1学年は2月初旬に「南郷自然の教室」、2学年は、東京校外学習、そして3学年は、既に始まっている私立受験に続く2月末の公立高校受検に向け、着々と準備を進めているところです。特に3学年については、人生の中の一つの岐路に当たる大切な時期。そんな生徒の皆さんに、応援の意味を込めて表題の言葉を紹介します。この言葉は、日本を代表する作家「武者小路実篤」の言葉です。



精巧【7・8組作品展示より】

「いかなる時も」前に1歩踏み出すことが大事であること、また、「いかなる時」とはピンチの時だけでなく、成功した時もふくめた「いかなる時」であること…「今」という一瞬がどれだけ大事かを説いたものだとわれています。自分の未来というものは、自分が今踏み出す一歩が積み重なって、形作られていくのかもしれませんが、「もう一歩」の気持ちを大切に、これからの日々を（毎日）を）過ごしてくれることを期待しています。

視点を変えて、教職員はというと、このような生徒達との教育活動を大切にしながら、来年度に向けた準備を着実に進めています。具体的には、年間行事計画の作成に加え、教育活動の充実を目的にした日課表の見直し（授業時間・部活動時間の確保）に加え、学力向上に向けた学習指導体制の見直し等を同時に進めております。また、中教審からの緊急提言（令和5年9月）に基づき、「教師を取り巻く環境整備」についても検討を始めたところです。この緊急提言では、「学校・教師が担う業務の適正化の一層の推進」として、以下の3項目が掲げられています。（保護者・地域の皆様もご理解ください。）

- （1）「学校・教師が担う業務に係る3分類」を徹底するための取組（資料1参照）
- （2）各学校における授業時数や学校行事の在り方の見直し（授業時数の適正化・学校行事の精選等）
- （3）ICTの活用による校務効率化の推進（学校保護者間の連絡手段のデジタル化）

【資料1…学校教師が担う業務に係る3分類(平成31年 中央教育審議会答申)】

基本的には学校以外が担うべき業務	学校の業務だが必ずしも教師が担う必要のない業務	教師の業務だが、負担軽減が可能な業務
①登下校に関する業務 ②放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導されたときの対応 ③学校徴収金の徴収・管理 ④地域ボランティアとの連絡調整 （※その業務内容に応じて、地方公共団体や教育委員会、保護者地域学校共同活動推進委員や地域ボランティア等が担うべき）	⑤調査・統計等への対応（事務職員等） ⑥児童生徒の休み時間における対応（輪番・地域ボランティア等） ⑦校内清掃（輪番・地域ボランティア等） ⑧部活動（部活動指導員等） （※部活動の設置・運営は法令上の義務ではないが、ほとんどの中学・高校で設置。多くの教師が顧問を担わざるを得ない実態）	⑨給食時の対応（学級担任と栄養教諭の連携） ⑩授業準備（補助的業務のサポートスタッフの参画等） ⑪学習評価や成績処理（補助的業務のサポートスタッフの参画等） ⑫学校行事の準備・運営（事務職員との連携・一部外部委託等） ⑬進路指導（事務職員や外部人材との連携・協力等） ⑭支援が必要な児童生徒・家庭への対応（専門スタッフとの連携協力等）

この号を書きながら、「今が一番大事な時だ。もう一歩」…私が言われているような気がしてきました。今の社会において、「生徒のための学校運営」は教職員だけでは成し得ることはできません。今後とも、保護者や学校関係者の皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。